



2026年8月1日（日） 日本学術会議主催学術フォーラム

「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正 —男女共同参画基本計画の実装とジェンダー主流化—

趣旨説明

1

第一部会員・大阪大学法学研究科

島岡 まな

本フォーラム開催の背景

- 提言「**社会と学術界におけるジェンダー平等・公正を目指してー2030年に向けた課題**」（2025年10月27日発出）のフォローアップ
- 男女共同参画基本計画の「実装」を問い直す
- 日本では**男女共同参画基本計画**が約30年にわたり策定されてきた
- 一方で、**日本のジェンダー平等**は依然として**国際的に低い水準**
- 世界経済フォーラム・ジェンダーギャップ指数（2025年）
 - **148か国中118位**
- 「**なぜ政策が十分機能してこなかったのか**」を**学術的に検証**する必要あり

提言「社会と学術界におけるジェンダー平等・公正を目指して－2030年に向けた課題」 (2025年10月27日発出)

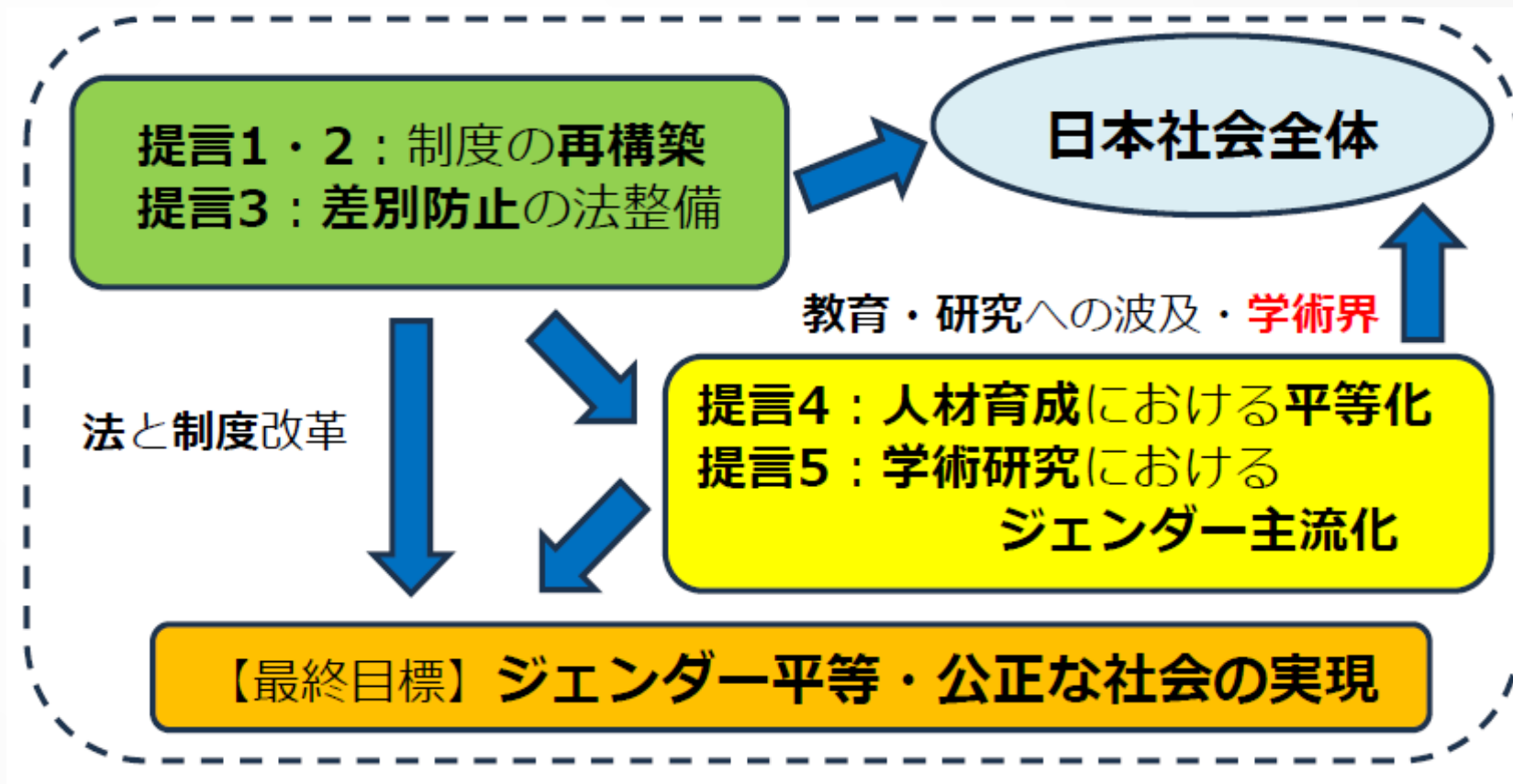
提言1 ジェンダー主流化の徹底

提言2 男女共同参画基本計画の実効的推進

提言3 ジェンダーに基づく差別・暴力の防止

提言4 研究人材育成における平等化

提言5 学術研究におけるジェンダー主流化



本フォーラムの問題意識

- 「政策はある」のに、なぜ変わらないのか
- 私たちが議論したい問い
- 男女共同参画政策は**どこで実効性を失う**のか
- **構造的障壁**は何か
- **ジェンダー主流化**をどう具体化するか
- 学术界は社会変革にどう貢献できるか
- 制度の有無ではなく、「実装」の質を問うことが
本フォーラムの中心テーマ

2030年に向けた4つの論点

- 提言を踏まえた重点テーマ
 - 本フォーラムでは、2025年提言のフォローアップとして、
 - ① 男女共同参画基本計画の実効性確保
 - ② ジェンダー主流化の具体的実装
 - ③ 学術界・社会における差別・暴力・人材育成
 - ④ 学術振興とジェンダー平等の相互強化
- を中心に議論

提言と第6次男女共同参画基本計画（第6次計画）の 対応

6

提言項目	具体的内容	第6次計画での扱い	評価
提言1 「ジェンダー主流化」を具体的な政策プロセスとして実行するべきである。	「ジェンダー主流化」を具体的な政策プロセスに	頻繁に言及するものの、理念のみで、具体的な制度化については弱い	○
	男女共同参画影響調査等	制度化なし	×
	影響調査専門調査会設置	記載なし	×
提言2 男女共同参画基本計画の実効性を確保するべきである。	「施策の実施状況の監視」を担う専門調査会の復活	「男女共同参画会議の下、専門調査会等において、EBPMの観点を踏まえつつ、学識経験者等の知見を積極的に取り入れ、各府省等の施策の総合調整やその効果を高めるための方策等について、調査審議を行う」と明記	○
	男女共同参画推進会議の復活	男女共同参画推進本部の役割は明記	△
	独立行政法人男女共同参画機構の活用	複数個所で明記	◎
	ジェンダー統計の拡充と公開	複数個所で明記	◎

提言項目	具体的内容	第6次計画での扱い	評価
提言3 ジェンダーに基づく差別・暴力の防止を、予防、加害者処罰、被害者救済の各段階においてさらに強化すべきである。	性犯罪対策強化	法改正、ワンストップ支援センター等に言及	◎
	ハラスメント防止	複数個所で記載あり（禁止法については記載なし）	○
	（買春者処罰導入を含む）売春防止法の見直し	記載あり（買春者処罰については記載なし）	○
	包括的性教育	他の言葉（「生命の安全教育」など）に置き換え	△
	DV被害者の保護強化	複数個所で記載があるが、シェルターの整備等の予算措置については記載なし	△
	包括的反差別法	記載なし	×
	国際労働機関（ILO）のハラスメント禁止条約批准	複数個所で記載はあるが、努力するだけの言及	△
	インターネットを利用した性暴力等への対応	複数個所で記載があり、提言より踏み込んだ内容	◎

提言4 すべての分野の人材育成において、ジェンダー平等・公正を実現すべきである。

女性研究者比率向上

数値目標達成、採用・登用促進を明記

◎

女性管理職・学長等の登用

登用促進・学長・理事長等の女性比率把握・公表

◎

ポジティブ・アクション

推進を複数個所に明記

◎

研究と育児・介護の両立

環境整備を明記

◎

女子学生の理工系進学

独立施策として採用

◎

人文・社会科学を含めた女性参画

理工系中心で、相対的に弱い

△

任期付き研究者支援

記載なし

×

提言5 日本の学術を一層振興させるために、あらゆる学術分野にジェンダー視点を浸透させるとともに、学術の振興を通して社会のジェンダー平等・公正を実現すべきである。

ジェンダード・イノベーション

第5分野の柱として積極採用

◎

科学技術政策へのジェンダー主流化

「テクノロジー関連施策のジェンダー主流化」として採用

◎

性差医療

包括的な健康支援のための体制・環境の整備の中で記載

◎

国の科学技術プロジェクトへの女性参画

国プロへのPA推進を明記

◎

セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス・ライツ

「第4分野 生涯を通じた男女の健康への支援」の中でリプロダクティブ・ヘルス・ライツには言及するが、性教育とは切り離して記載

△

科研費審査改革

記載なし

×

総合評価

10

- ▶ 第6次計画：日本学術会議提言が示した**学術分野の課題認識及び政策の方向性**を相当程度取り入れていると評価
- ▶ 特に、**女性研究者の採用・登用促進、研究継続支援、女子の理工系進学促進、ジェンダード・イノベーション**などは、提言との対応関係が明確
- ▶ 他方、提言が重視した**制度改革やガバナンス改革**：採用が限定的で、研究費制度、評価制度、監視・点検体制など**実施メカニズムに関する提案**は多くが見送られた

【理由】「**政策目標や施策の方向性**を示す**行政計画**」としての第6次計画の性格と、「**制度改革を含めた中長期的政策提案**」としての日本学術会議提言の性格の相違

※しかし、**理念や方向性**を示し続けた**30年の成果は限定的**

⇒**今こそ、抜本的制度改革の時期では？**

本フォーラムで目指したいこと

- ➡ 「議論」で終わらせない

本フォーラムでは

- ➡ 課題を共有する
- ➡ 分野横断で知見を持ち寄る
- ➡ 実効性ある改善策を考える
- ➡ 2030年を見据えた具体的アクションにつなげる
ことが目標
- ➡ 皆様との活発な議論を通じて、ジェンダー平等の実装を前進
させる契機となることを期待

本日は、よろしくお願いいたします！

